

JICA研修員 9人が宇治市に

副市長らと懇談

国際協力事業団（JICA）の招きでJICA

大阪国際センター（大阪府茨木市）を訪れているアルバニア、エルサルバドル、エチオピアなど7カ国の研修員9人が20日、宇治市役所を表敬訪問し、原田和久副市長らと懇談した。写真は、一行は、初めて見た平等院の重厚さに感嘆したことを話し、市が抱えている問題点などを聞いた。

女性3人を含む25歳から47歳までの9人で、いずれも国立の考古民族学

研究所や民俗学博物館に所属する考古学の技師や研究者。開発途上にある国内の土中には多くの遺産が手つかずで眠ったままになっている。将来、発掘が進む過程で必要な

測量技術を日本で学び、母国で測量技術の指導者になるための研修で、2月から各地で研修を受け、6月に帰国する予定。宇治での研修は、JICAで指導にあたる同市



宇治式番の土地家屋調査士事務所（調査・測量士で関西大学工学部講師の小林明石さん（36）が招いた。平等院など市内見学を採り入れながら、新興住宅地などで測量した。21日は測量機器を使った研修を受けた。

(2)

城 南

(3) 第9737号 【新聞定価 1ヵ月1050円 1部 50円】

どここと比べても美しい

JICA研修団が来宇

埋蔵文化財保存技術

が、深い歴史を持つ地元で文化財保存に必要な測量技術を学んでもらいたいと企画。19日

市役所を表敬訪問し、歴史と調和した宇治の街並みへの感動ぶりを語った。

から21日まで、座学や実習のほか、平等院や対鳳庵の見学など熱心に取り組んでいる。

訪れたのは独立行政法人・国際協力機構（JICA）の文化財修復整備技術研修団で2月から滞日中のアルメニア、エルサルバドル、エチオピアなど7カ国でいずれも文化財保存技術の指導的立場に立つ9人。



【原田副市長から歓迎を受ける研修員たち】

市役所には小林さんや小林寛明（朝日新聞）調査設計コンサルタント社長、市歴史資料館の浜中邦弘さんらも同行。出迎えた原田和久副市長は「雨の風情もお楽しみいただきたい。また機会がございましたら、源氏物語宇治十帖に描かれる、この宇治にお越しいただけたら」と歓迎した。

研修員たちは「きょう初めてお茶をいただきました。とても興味深い」「とても整備された、きれいな街」「自然が保全されていると印象に残った。全国どこの都市と比べても美しいと感じました」などと語り、技術者らしく都市計画についての質問も寄せていた。

竹岡花壇苗